

月刊絵本「こどものせかい」の研究 その 2

三好碩也と「ノアの箱舟」絵本

柴村 紀代

藤女子大学 人間生活学部 保育学科

1. 「こどものせかい」と聖書絵本

前回の紀要 39 号で、至光社の月刊絵本「こどものせかい」の成り立ちについて述べた。

「こどものせかい」は、1948 年に創刊された「BABY DIGEST」¹⁾以来、一貫してカトリック保育雑誌としての役割を果たしてきた。当然、その中には聖書を題材とした話も多く、1963 年 5 月から 1 冊 1 話の月刊絵本形式になった後も、年に数冊、聖書絵本を出している。聖書絵本の執筆者としては、佐久間彪神父や景山あき子シスターなど聖職者の執筆も多く見られるが、その他画家ではかずや昌宏、野村昌、井口文秀、三好碩也などが、それぞれの個性を生かして聖書絵本を描いている。一般的には堅苦しさを感ずるような聖書絵本だが、一冊ずつ手に取ってみると意外に自由な発想で描かれていることに気づかされる。今回はこれらの執筆者の中から三好碩也の「ノアの箱舟」絵本を取りあげることにした。

2. 三好碩也と聖書絵本

三好碩也は、1924 (大正 13) 年、父の赴任先である朝鮮 (現韓国) 京城に生まれる。本籍地は母の生地である香川県三豊郡山本町。戦前、旧制第一高等学校、東京大学に進み、建築家を志すが、戦後、体調を崩し帰郷。絵画を同郷の洋画家猪熊弦一郎に学んだ。郷里で静養中、幼稚園や公民館を設計、保母に絵本や紙芝居の手作りを勧め、指導したりした。1958 (昭 33) 年上京し、絵本制作を始める。福音館書店の「こどものとも」72 号に描いた『うちゅうのしちにんきょうだい』(1962 年 3 月) が最初の絵本で、ざん新な発想と物語の豊かさは抜きでいた。この作品は第 10 回サンケイ児童出版文化賞・団体賞の一冊として受賞している。

その後、至光社の武市八十雄²⁾と出会い、1963 (昭 38) 年、「ノアの箱舟」を絵本化した最初の聖書絵本「かーくとぷーく」を「こどものせかい」16 巻 1 号に描く。これを皮切りに、三好碩也の「こ

ものせかい」での仕事はほとんど聖書絵本への取り組みであり、そのタイトルだけを見ても、聖書を自由に描いていることがわかる。

以下、三好碩也の聖書絵本を例記する。

作品名 / 出典 / 掲載誌 / 出版年

- ・「かーくとぷーく」 / 創世記 (ノアの箱舟) / 「こどものせかい」16 巻 1 号 / 1963 年 6 月
- ・「せかいでいちばんはじめのはなし」 / 創世記 (天地創造) / 「こどものせかい」17 巻 3 号 / 1964 年 8 月
- ・「ものがたりよな」 / ヨナ記 / 「こどものせかい」18 巻 3 号 / 1965 年 8 月
- ・「だびでのうた」 / サムエル記 (上) / 「こどものせかい」22 巻 1 号 / 1969 年 6 月
- ・「ゆめみるよせふ」 / 創世記 / 「こどものせかい」26 巻 6 号 / 1973 年 11 月
- ・「ないのこもりうた」 / 出エジプト記 / 「こどものせかい」26 巻 6 号 / 1973 年 11 月
- ・「ちいさなひつじかいとちいさなてんし」 / 新約聖書 (生誕) / 「こどものせかい」27 巻 7 号 / 1974 年 12 月
- ・「あるいてあるいてあるくはなし」 / 出エジプト記 / 「こどものせかい」31 巻 6 号 / 1978 年 11 月
- ・「よなとおおきなさかな」 / ヨナ記 / 「こどものせかい」30 巻 1 号 / 1977 年 6 月
- ・「えでんのおにわ」 / 創世記 / 「こどものせかい」33 巻 12 号 / 1981 年 5 月
- ・「だにえる」 / ダニエル記 / 「こどものせかい」35 巻 4 号 / 1982 年 9 月
- ・「だびでとおおとこ」 / サムエル記 (上) / 「こどものせかい」36 巻 9 号 / 1984 年 2 月
- ・「ざっくざっくいこう」 / 出エジプト記 / 「こどものせかい」39 巻 1 号 / 1986 年 6 月
- ・「はこぶねのなかはおおさわぎ」 / 創世記 / 「こどものせかい」38 巻 2 号 / 1985 年 7 月
- ・「みみをいっぱいあけて」 / サムエル記 (上) / 「こどものせかい」40 巻 2 号 / 1987 年 7 月

- ・「ヤコブとてんのはしご」／創世記／「こどものせかい」41巻2号／1988年7月
- ・「シナイのおやまがみていたよ」／出エジプト記／「こどものせかい」42巻2号／1989年7月
- ・「ポポとキキ」／ヨシュア記／「こどものせかい」43巻9号／1991年2月
- ・「まいにちぼっぼこよるだっぼっぼこ」／新約聖書（生誕）／「こどものせかい」44巻8号／1991年1月
- ・「もううんバベルのとう」／創世記／「こどものせかい」45巻5号／1992年10月
- ・「いろいろいろのはなし」／創世記／「こどものせかい」48巻2号／1995年9月7日

三好碩也は1997年9月7日、心不全のため急逝したが、その業績は代表作『子うさぎましろのお話』（佐々木たづ・文 ポプラ社 1970）をはじめ、「こどものせかい」において十分に発揮された。

2001（平成13）年、香川県文化会館で開催された「絵本原画にみる三好碩也の世界」展図録³⁾において、武市八十雄は三好碩也の画業を次のように評している。

「変に理屈に走ったりリズムではなく、限りなく生まれる絵本の一冊一冊に、無邪気な子どもの純な夢中さが色になり線になって、三好投手ならではの美しさをもっていました。

大人に生涯なら（なれ）ない永遠の子ども。それが、今振り返っても画業の真価でしょう。私どもの絵本作りの『0歳から100歳までのすべての子どもに』という思いと、ピッタリ合点していたのは奇縁としか申しあげようがありません。」

至光社の目指す「感性の絵本」は、子どもの純粹で素朴な感性をこそ大事なものとしており、三好碩也はその貴重な「子どもの魂」を生涯失わなかった作家であった。豊かな色彩と大胆な構図が、童心の世界で花開くことによって日本だけでなく国際版絵本となっても海外の高い評価⁴⁾を得ることにつながっていったのである。そのことを三好碩也の「ノアの箱舟」絵本で具体的に見て行きたい。

3. 三好碩也の「ノアの箱舟」絵本

三好碩也には二冊の「ノアの箱舟」絵本がある。一冊は1963年、最初に「こどものせかい」で描い

た「かーくとぷーく」である。題名からは、これが「ノアの箱舟」⁵⁾の話とはわからない。「かーく」はカラスで、「ぷーく」はハトである。わがままなかーくと、思慮深いぷーくは、そのま

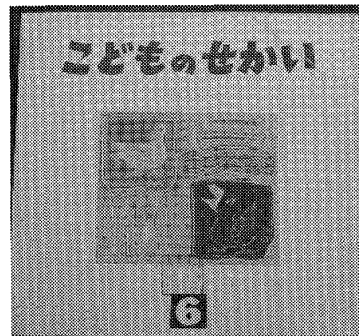
ま子どもたちの身近にある子ども像として共感を持つに違いない。この二羽を狂言回しにして、物語が進行していく。聖書では、水が引いたのを確かめるべくノアはカラスを放つが、カラスはそのまま戻ってこない。ハトを放つと、ハトがオリーブの若葉をくわえて戻ってきたことで、地の表が乾いたことを知るのだが、三好碩也は、ハトのぷーくがカラスのかーくを心配して探しに行ったと語る。

子どもたちは、かーくを悪い子、ぷーくを良い子と自分たちの日常に置き換えることで、この話をわかりやすく理解できるように工夫されている。文にはリズムがあり、「はじめは ぼつん それから ぼつん ぼつん まもなく ざあざあ じゃぶじゃぶ」（第5場面）など、ユーモアもある楽しい語り口になっている。

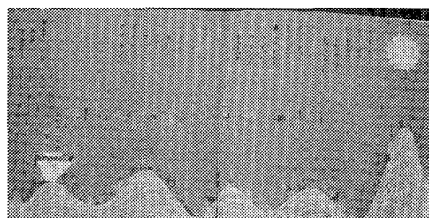
一方、画面構成は斬新で、世界を覆い尽くし、すべての生き物を滅ぼした洪水のすさまじさを、計算された画面構成と色遣いで表現している。ギラギラと照りつける太陽の元、いくつもの山や谷を越えてやってくる生き物

たちの列を描いた第4場面や、山々を飲みこんで、なお幾尋もの深さをたたえる圧倒的な水の量を示す第7場面など、

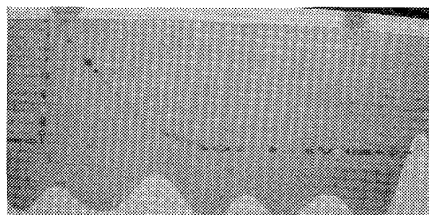
計算された構図の美しさを存分に見せてくれる。



「かーくとぷーく」



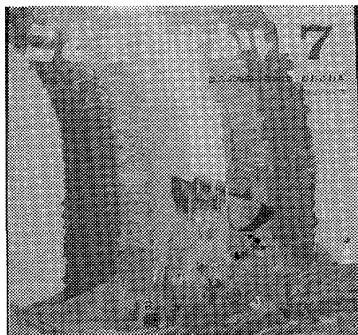
「かーくとぷーく」第4場面



「かーくとぷーく」第7場面

この絵本は残念ながらその後上製本にはなっていないが、建築家としての三好碩也のセンスがよく表現された作品であり、初期の傑作の一つだと私には思える。

もう一つの「ノアの箱舟」絵本は 23 年後に描かれた「はこぶねのなかはおおさわぎ」である。円熟味をました三好碩也の再度の「ノアの箱舟」は、子どもの疑問に答えようという形を取った絵本になっている。



「はこぶねのなかはおおさわぎ」

聖書では 1 年と 10 日におよぶ箱舟に閉じこめられた動物たちの生活がどのようなものであったかは、一切語られていない。子どもは、動物たちがどうしていたのだろうと素朴な疑問を持つはずだ。ここでは舟に閉じこめられた動物たちが主役で、美しさを見せびらかすくじやくや、盗み食いするぶたや大きすぎる象が、みんなのけんかの種になる。これは子どもたちが幼稚園や集団生活の中で起きる争いと重なり、その解決に興味を抱くに違いない。三好碩也は動物たちが神さまから与えられた「考える力」を使い、それぞれの大きさや性質も性格も神から与えられたものであり、互いに理解し、尊重しあうことを気づかせる。表紙に大きく描かれた虹は、神の契約の印であると同時に、互いにゆずりあうことの大切さを人々が思い出す印として描かれている。

ここでは前作で使われた圧倒的な洪水を表現した構図の妙は使われず、アニメチックとも言える動物たちが描かれている。この絵本では、なぜ洪水が起きたか、神が人間の悪を滅ぼすために起こしたという理由は語られず、只、動物たちが洪水をのがれて、ノアおじさんの箱舟に乗せてもらったとだけ語られる。物語の焦点は、狭い船室の中の動物の争いにしぼられ、動物たちの改心が描かれる。

三好碩也のこの二冊の「ノアの箱舟」絵本を通して、聖書物語を絵本化する問題点が鮮明に浮かび上がってくる。

絵本は物語を視覚化するだけではなく、その場面をどのように描くかという画家の解釈が入り込む。と同時に、誰に見せるかという読者の想定が行われる。「こどものせかい」の読者は幼稚園児である。

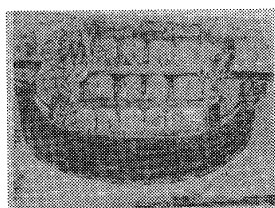
子どもたちに向けて聖書を正確に伝えるというよりも、子どもたちに理解できる工夫によって、聖書物語を次世代に伝えていこうとする意図が伺える。

三好碩也が試みた絵本化は、常に子どもたちを念頭においている。それが 2 冊目の絵本「はこぶねのなかはおおさわぎ」に如実に現れていると見ることができる。

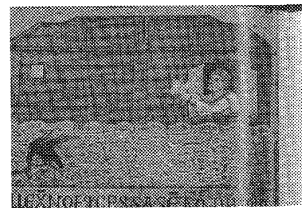
このことは、聖書物語の絵本化に一つの大きな示唆を与えているように思える。画家による自由な聖書の解釈とそれを可能にする子ども読者の想定がどのような多彩なノアの箱舟絵本を世の中に送り出してきたかを次に見てみたい。

4. 多彩な「ノアの箱舟」絵本

別表にあげた 21 冊の絵本を述べる前に、絵画に描かれた「ノアの箱舟」に触れておきたい。『キリスト教美術図典』によれば、ノアは「救われた魂の



サン・サヴァン・シュル・ガルダンプの聖堂壁画



聖マルコ大聖堂モザイク

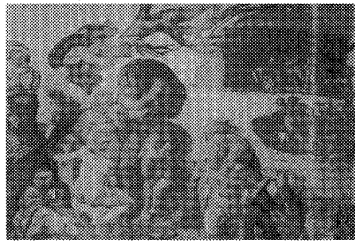
象徴と解され、早くからカタコンペの装飾として使われ」「その物語は豊富な絵巻として美術に扱われ」てきたとある。12 世紀初頭のサン・サヴァン・シュル・ガルダンプの聖堂壁画には、ゴンドラのような船の内部が三層に分かれ、ビルの窓のような個室に一つずつの動物が描かれている「ノアの箱舟」が描かれている。又、1220 年以前のヴェネツィアの聖マルコ大聖堂モザイクには、おぼれる人々やハトを放つノアと、最初に放たれたからすが動物の死骸にとまっている絵が描かれている。スペインのゲローヌ大聖堂古文書館蔵の 10 世紀の写本には、裸体の人々が水におぼれる様が生ま生ましく描かれている。



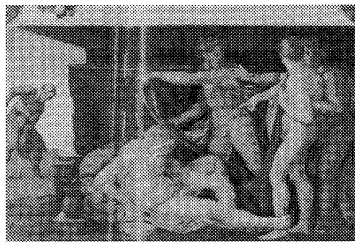
ゲローヌ大聖堂古文書館蔵

しかし、最も目をひくのは、ヴァチカンのシステイナ礼拝堂に描かれたミケランジェロの天井画であろう。創世記を<天地創造><人間の墮落><ノア物語>の3場

9画面に構成した内の<ノア物語>は、人々が洪水から逃げまどう姿を生ま生ましく刻明に描いており、洪水後の「ノアの泥酔と嘲笑」も描かれている。彫刻を本領としたミケランジェロが、ノアの物語を人間に襲いかかった不幸としてあくまで



ミケランジェロ「洪水」



「ノアの泥酔と嘲笑」

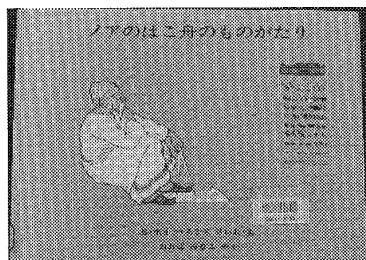
「描かれた大理石像

としてモチーフ化したことは興味深い。その他、現代ではカンディンスキーが「コンポジションVI」で「ノアの箱舟」を描いており、絵画における「ノアの箱舟」を辿ることも絵本との比較において意義深いことではあるが、今回は先を急ぎ絵本の特徴について述べたい。

さて、別表に示した 21 冊の「ノアの箱舟」絵本は、今回私が目を通した絵本である。この他にも、吉田新一が『絵本の愉しみ』で紹介している邦訳されていない絵本など、捜せばもっと多くの絵本があると思われるが、今回は、現在入手可能な絵本を中心に絵本化の問題を考えてみたい。

まず、年代順に見れば、オズボーン・コレクション⁶⁾の「The Story of Noah.s Ark」が圧巻であろう。

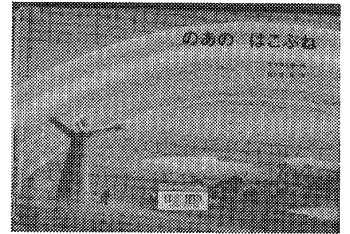
1905 年、ボイド・スミスによって描かれたこの大判の絵本には、箱舟に乗った動物だけではなく、大きすぎて乗り込めなかった恐竜たちまで描かれていて楽しい。



「The Story of Noah. s Ark」

1970 年代に出た絵本の中で、至光社からもう一

冊「のあのはこぶね」が出ている。こちらは佐久間彪文、かすや昌宏絵である。表紙は大きく描かれた虹の前で、それぞれの大地へと去っていく動物たちを両手を広げて見送るノアとかめが描かれている。かめは他の絵本にも登場し、両生類であるかめが乗ろうかどうしようかと迷いつつ、「やっぱり 僕も乗せてください、大水で大変らしいですから」と最後に乗り込んでくるところが、エピソードとして描かれている。しかし、このかめはこ

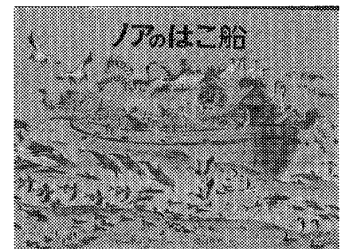


「のあのはこぶね」佐久間彪文・かすや昌宏絵

の絵本ではそれ以上に重要な役割をはたしている。動物たちが全員箱舟から降りた後、ノアとかめだけが箱舟に残っていて、ノアが「やれやれ やっとみんな はこぶねからおりたね」「それじゃかめくんぼくたちもおりようか」とノアが話しかけたとたん、「あっ」と、文字ページの左すみに小さくかめの言葉が書かれ、そして次のページを開くと、見開きいっぱい表紙に描かれた虹のページがラストシーンとして置かれているのである。これこそ、絵本のめくる機能を生かして、何も説明しないことで、神の契約の虹の美しさ、壮大さを読者に印象づける手法である。

80 年代に出たオーウィック・ハットンの絵も独特な個性があって楽しいが、絵が存分に物語るといえる点では、ピーター・スピアの「ノアのはこ船」が何と言っても圧巻である。

この絵本はいわゆる文字なし絵本だが、表紙と裏表紙の見返しに聖書からの物語が書きこまれているのと、17 世紀オランダのヤコブス・レビ



「ノアのはこ船」ピーター・スピア

ウスの韻文による「大こうずい」と題された詩が入っている他は、絵だけで物語が詳細に語られている。動物たちが乗り込む場面も、象の群やきりんの群、それぞれの仲間に見送られた二匹が少し誇らしそうに乗り込む様子が実に細かく描かれている。ノアの奥さんがねずみに驚いて立ちすくんでいる絵や、

息子たちが苦勞してトラの檻を積み込む所や、いやがるロバをノアが引っばってくる絵など、細部を読む楽しみは、閉じ込められた船内の絵でも如何なく發揮されている。象にしっぽを踏まれたねずみの連れを助けようと象に抗議しているねずみの絵や、鳥小屋の中にちゃっかり座っている猫など、誰もが楽しめる絵本だ。いよいよハトを放したノアが心配しながらデッキを歩いている様や、持って来たオリーブの枝をふりながら動物たちに見せに走るノア。その若葉をよだれを垂らしながら見ている動物たち……とピーター・スピアのユーモアがこの詳細な細部から伝わってくる。ラストシーンの虹の場面は、すでに大地に緑がよみ返り、ノアがぶどうの若木を植えるのに余念のないその背景に、ノアと大地を祝福するかのよう虹が描かれている。

同じく緻密に描かれた絵本の双壁としてアーサー・ガイサートの「ノアの箱舟」をあげることができる。こちらは設計図のように精密に描かれた絵本で、幼い子向けと言うより、大人が愛蔵本として持っていたい絵本だ。

子ども向けの絵本では、おかだてつおの絵本があっさり描かれて幼い子向けに楽しい絵本になっている。同じく至光社の「ノアおじさん」はつるみゆきの作で、これは「こどものせかい」を経ず、直接上製本として出されている。表紙から裏表紙にかけて動物たちが船を作るのを手伝っている様子がほほえましく描かれている。ノアの子どもたちは省略され、ノアの奥さんは娘のように若い。長く閉じ込められる動物たちに元気がなくなり弱ってきた時、ノアおじさんは壁に外の世界の絵を描きはじめたのだ。

ディック・ブルーナも又、彼独特の「ノアのはこぶね」を描いている。「ケムエルとノアのはこぶね」と題されたこの絵本には、一匹の毛虫がノアの横で存在を主張している。一対ずつ描かれた動物のページが続き、ブルーナにとって、「ノアの箱舟」絵本は、動物こそが主役なのである。

最後にブライアン・ワイルドスミスの絵本がしか



「ケムエルとノアのはこぶね」
ディック・ブルーナ

け絵本になっていることについて触れておきたい。見事な動物や鳥の絵を描いたワイルドスミスは、ここでは動物よりも、めくると折り畳まれていた箱舟や、逆まく波がページの間から立ち上がってくる見事さを取っている。5場面の仕かけの内、ハトが大きく浮かび出てくるページが人目を引く。

5. 「ノアの箱舟」絵本の特徴

なぜ聖書の物語の中でも、キリスト降誕に継いで「ノアの箱舟」の絵本が多いかについては、聖書の中でも壮大な話であるということと、世界中の動物がすべて一対ずつ乗り込むという「動物づくし」の要素が、絵本にしやすい要因としてあげられる。描かれる動物は子どもたちがよく知っているポピュラーな動物たちで、必ず象やキリン、ライオンブタやヤギなどが描かれ、子どもたちに親しみを持たせている。

逆に絵本に描かれない部分は、人類や生き物たちがおぼれ死ぬ場面である。その他、ノアが助かった後、清い鳥と動物をはん祭として神に捧げる部分。はん祭の祭壇や煙が一部の絵本に描かれているが、詳しくは語られない。ノアがその後ぶどう園を作り、ミケランジェロが描いたノアが最初のぶどう酒で酔っぱらう逸話は、どの絵本でもカットされている。

子ども向けの絵本で取りあげられるテーマは、狭い船室の中に閉じ込められた集団が、いかに仲良く過ごすかが重要なファクターとなっている場合が多い。

聖書の原話は、神の前に正しい人であるノアが、神の言葉を信じ、その言葉に忠実に従って船を作り、最後まで信仰を失わないその敬虔な態度こそが主題であるのだが、原話の中にすでにすべての動物の一対を乗りこませるといふファンタジイが仕込まれているのである。その部分を拡大し、楽しく豊かな絵本にすることで、その底に流れる神への信頼が自然に伝わるとするなら、聖書の絵本化は決して原話の歪曲や逸脱とばかりは言えないのである。

昔話が絵本化によって今も子どもたちに身近なものになっているように、聖書物語も又絵本という新しいメディアによって、世代を越えて子どもたちに受け継がれて行こうとしている。例え、「ノアの箱舟」が「動物づくし」という絵本にしやすいファクターによるものだとしても、子どもたちの心に正しき人ノアの行いが、結局神によってよしとされる

主題は間違いなく子どもたちに受けとられるであろう。

21世紀の人類による環境破壊のさしせまった問

題は、ノアの物語を古くて新しい物語として今後も絵本を通して読みつがれ語りつがれて行くに違いない。

ノアのはこぶね作品リスト

番号	作品名	作者	出版社	出版年
1	かーくとぷーく	三好碩也・作	至光社	1963
2	のあのはこぶね	たなかまきこ・え あびこみち・え	女史パウロ会	1972
3	ノアのはこぶね	クリフォード・ウェブ作 松居直訳	福音館書店	1973
4	のあのはこぶね	かすや昌宏 絵	至光社	1977
5	ノアのはこぶね	オーウィック・ハットン作 岩崎京子訳	偕成社	1982
6	ノアのはこぶね	ゲトルト・フッセネガー 作 アネゲルト・フックスフーバー絵 松居友訳	女子パウロ会	1984
7	ノアのはこぶね	アンドレ・エレ 作 堀内誠一訳	福音館書店	1985
8	ノアのはこぶねのものがたり	エルマー・ボイド・スミス再話・絵 おおばみなこ訳	ほるぷ出版	1986
9	ノアのはこぶね	ピーター・スピア絵 松川真弓訳	評論社	1986
10	はこぶねのなかはおおさわぎ	三好碩也・作	至光社	1986
11	ノアと箱船と動物たち	A・エルポーン・文 I・ガンチェフ・絵 田中小実昌訳	日本基督教団出版局	1988
12	ノアの箱舟	アーサー・ガイサート 作 小塩節・トシ子訳	こぐま社	1989
13	ノアのはこぶね	おかだてつお え	いのちのことば社シーアール企画	1991
14	ノアのはこぶね	ジェーン・レイ 作 奥泉光訳	福武書店	1992
15	ノアのはこぶね	ルーシー・カズンズ 再話・絵 五味太郎訳	偕成社	1993
16	ノアのはこぶね	ブライアン・ワイルドスミス ぶんとえ	大日本絵画	1994
17	ノアのはこぶね	リンダ・パリー 文 アラン・パリー・絵	女子パウロ会	1996
18	ノアのはこぶね	ヨゼフ・ウィルコン 絵 ピョートル・ウィルコン文 那須田淳訳	講談社	1998
19	ノアおじさん	つるみゆき	至光社	1999
20	ケムエルとノアのはこぶね	ディック・ブルーナ 作 松岡享子訳	福音館書店	1999
21	Professor noah's spaceship	ブライアン・ワイルドスミス ぶんとえ	oxford university	1980

注

- 1) 「BABY DIGEST」 1948年5月光の友社事業団により創刊された。当初は小学校を対象にした児童雑誌。5巻8号(1948年9月)から「こどもの世界」と改題。児童雑誌から保育雑誌へと転換して行った。
- 2) 武市八十雄 「BABY DIGEST」創刊時から一貫して編集に携わり、「こどものせかい」9巻11号(1957年3月)以降「製作者」として至光社の絵本の索引役を果たしてきた。59年には「国際版絵本」を刊行。その海外での第一作は、三好碩也の「せかいでいちばんはじめのおはなし」が1965年ドイツで発行された。
- 3) 「絵本原面に見る三好碩也の世界」展
平成13年8月4日-9月2日開催 会場：香川県文化会館 主催 香川県文化会館 香川教育委員会 図録は3部構成、その第1部を聖書物語、武市八十雄「子ども魂の絵本」の他、学芸員村上敬「三好碩也の味わい方」、作家略歴がついている。(非売品)
- 4) 三好碩也の海外版絵本は12タイトル30冊がイギリス・アメリカ・ドイツ・フランス・オランダで発行されている。(「子ども魂の絵本」武市八十雄、『絵本原面の見る三好碩也の世界』)
- 5) 「ノアの箱舟」は旧約聖書第5章から第9章で語られている。
- 6) オズボーン・コレクション
イギリス・ダービシャーの図書館長エドガー・オズボーン(1890-1978)夫婦が集めた19世紀の児童書コレクション。1949年、夫婦はカナダのトロント公共図書館児童部門の充実に努力していたリアン・H・スミスに感銘を受け、自分たちの蔵書2000冊を同館に寄贈。それ以後も収集が続けられた。日本では1979年、その中の34冊がほるぷ出版により復刻、続オズボーン・コレクションⅡの30冊を入れると64冊を現在日本で見る事ができる。

参考文献

1. 『児童文学者人名事典』中西敏夫編
出版文化研究会 1999年
2. 「絵本原面に見る三好碩也の世界」
香川県文化会館 2000年
3. 吉田新一「ノアのはこぶね絵本」『絵本の愉し

み』新世紀社 1981年 P66-81

4. 『図説大聖書』講談社 1981年
5. 柳宗玄・中森義宗編著『キリスト教美術図典』吉川弘文館 1990年
6. 山形考夫『聖書小辞典』岩波ジュニア新書